

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成 25 年度 NO. 2

平成 25 年 5 月 12 日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

野幌原始林？

古くから札幌やその近郊に住んでいる方や、年齢をかさねている方が、愛着をこめて野幌森林公園を「野幌原始林」とよぶことがあります。原始林との語感からは、手つかずのうっそうとした森のイメージを受けますが、野幌森林公園の沿革から野幌原始林についての項目を調べてみました。

1921年(大正10年) 林内的一部トドマツ林など3地域 322haが史跡名勝天然記念物野幌原始林に指定される。

1952年(昭和27年) 天然記念物野幌原始林が特別天然記念物野幌原始林に昇格指定。

1954年(昭和29年) 洞爺丸台風で大量の風倒木被害を出す。

1959年(昭和35年) 洞爺丸台風の被害のため特別天然記念物野幌原始林の一部が、そして昭和37年に残りの部分も北広島地域(40ha)を除き解除される。

野幌森林公園要覧(公園事務所)、自然ガイド野幌森林公園(道新)引用

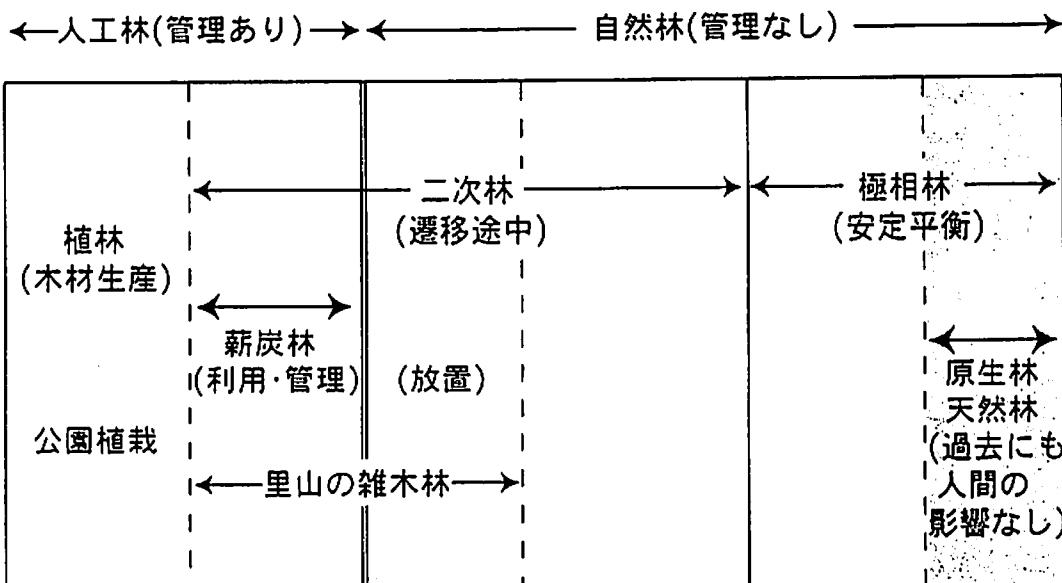
現在、公園内には特別天然記念物原始林(原始林)に指定されているエリアではなく、北広島レクの森に隣接する国有林に40ha弱の原始林が残っているにすぎません。

原生林と原始林

原始林と類似する言葉に「原生林」という言い方もあります。この二つは共通点や違いがあるのでしょうか。

「原生林」とはある程度昔から現在まで伐採や災害などによって森林破壊されたことがなく、またほとんど人が入ったことのない森林をさします。原始林とは、今まで一度も人が入ったことのない森で、原生林よりも貴重な森林と言っていいでしょう。しかし、昔から現在まで人手が一度も入らない場所は日本にはほとんど存在しませんので、まとまった伐採が行われていないという程度と考えられていて、国内にはいくつか原始林の名の下に保護を受けているのが実態です。

野幌森林公園内には現在原始林の指定をうけている地域はありませんが、森林保全の活動により自然の豊かな森が広がっています。この森を次世代につなげることが、森のさらなる豊かさにつながっていくことなのでしょう。(森林の変遷やその名称、森林のタイプ分けについては下図を見て理解していただければ幸いです。)



グリーンセイバーアドバンステキスト(樹木・環境ネットワーク協会)引用

花言葉

花言葉は植物に象徴的な意味を持たせるために与えた言葉です。植物に象徴的な意味を担わせる伝統は世界の多くの文化が持っていますが、現在行われているような花言葉の慣行は、とりわけ 19 世紀の西欧社会で盛んになりました。

花言葉を利用して草花を楽しむ習慣が日本に輸入されたのは明治初期ですが、当初は輸入された花言葉をそのまま使っていましたが、その後、日本独特の花言葉も盛んに提案されるようになりました。

春に咲く可憐な花に与えられている花言葉を知りながら草花に興味を持つことも面白いと思います。

フキノトウ（蘿の蔓） 待望 愛嬌 真実は一つ 仲間

フクジュソウ（福寿草） 幸福 幸せを招く 永遠の幸福 回想 思い出 悲しき思いで

ニリンソウ（二輪草） 予断 友情（仲良く並んで咲く白い花） 協力

ミズバショウ（水芭蕉） 美しい思い出 変わらぬ美しさ

ザゼンソウ（坐禅草） 沈黙の愛 ひっそりと待つ

エンレイソウ（延齡草） 奥ゆかしい美しさ 落ち着いた美しさ

エゾエンゴサク（蝦夷延胡索） 妖精たちの秘密の舞踏会

スミレ（薔薇） 小さな愛 ちいさな幸せ

紫 貞節 誠実

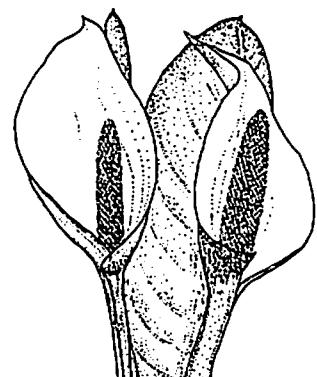
白 誠実 蔑観 あどけない恋 無邪気な恋

黄 牧歌的喜び 慎ましい喜び

カタクリ（片栗） 初恋 嫉妬 寂しさに耐える

ツクシ（土筆） 向上心 以外 驚き 努力

タンポポ（蒲公英） 真心の愛 神のお告げ 愛の信託 思わせぶり 別離



ダニに注意

○マダニによる感染症

今年1月マダニが媒介するウイルス感染症が報道されましたが、日本初の症例となったSFTS（重症熱性血小板減少症候群）で、国内での症例が確認されたのは12例、死者8人（4月末現在）で、その全てが西日本の症例となっています。マダニに刺されても発症することはまれですが、発症した場合の致死率は高く、治療法もまだ不明な点が多いということです。

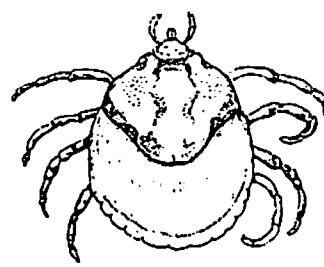
この他にマダニによる感染症には、リケッチャ菌による日本紅斑熱、ツツガムシ病、ポレリア菌によるライム病がありますが、これらには有効な抗菌剤があります。

○マダニの生態

マダニは♂3.2mm～♀2.3mm～ですが成長段階や個体差、吸血前後でサイズは異なります。マダニはハーラー器官と呼ばれる感覚器官を持ち、これによって哺乳類から発せられる二酸化炭素の匂いや体温、体臭、物理的振動などに反応して、枝や葉、草の上から飛び降り獲物にとりつき、あとは触覚によってなるべく毛のない場所を見つけ獲物の皮膚組織に食い込み吸血行為を行います。

○マダニ対策

- ・山、森、林の野外活動には長袖、長ズボン、帽子を着用し、襟元、袖口、ズボンの裾に隙間を作らない。
- ・野外活動が終わったらば、着用の服を払ったりして、ついているかどうか確認する。仲間同士で確認しあうことも良い。
- ・マダニが皮膚に食い込んでしまったら無理して取らず、医療機関を受診する。



マダニ